

令和7年度医学部・附属病院総合災害訓練

[10月3日(金)実施]

令和7年10月3日(金)午後、「令和7年度 医学部・附属病院総合災害訓練」を実施しました。当日は200人を超える医学部・附属病院の教職員が参加し、出雲市内で震度6強の地震が発生したことを想定して、防災訓練を行いました。

本訓練は、大規模災害発生時における迅速かつ的確な対応力の向上を目的として、医学部・附属病院が連携し実施するものです。安否確認や情報伝達、トリアージ、受け入れ体制の確認など、実践的な内容を通じて職員一人ひとりの危機対応意識を高めることを狙いとしています。

医学部と附属病院が一体となって防災意識を高め、今後も地域の災害医療を支える体制づくりを進めてまいります。



医学部側訓練

【訓練テーマ：学生の安否確認】

本年度の医学部側の訓練では

安否確認システム「ANPIC」を活用し、学生を対象とした安否確認訓練を実施しました。訓練当日は、医学科・看護学科いずれも80%を超える回答率となり、概ね良好な結果となりました。今後は全学生からの確実な回答(100%)を目指すとともに、学生の災害対応意識をより高めるための啓発活動を継続していきます。

今回の訓練では一定の成果が得られた一方で、医学部全体として今後に向けた課題も多く明らかになりました。これらの課題を踏まえ、より実効性の高い訓練体制の構築と防災教育の充実に努めてまいります。



災害医療・危機管理センター (DiMCOC) 内線：3040

DiMCOCサイト

災害情報載せています。

スマホからはこちら→



病院側訓練 【訓練テーマ：受援】

今年の病院側の訓練は例年通りの全体訓練と13個の個別の部署別訓練に加え、初めての試みとして「受援」をテーマに行いました。

当日は、雲南市立病院・益田赤十字病院・大田市立病院のDMATに来ていただき、院内の診療や活動の支援を受けました。

「病院評価の思考の整理を手伝っていただき助かった」

「他院への患者の搬送や受け入れについて部署でも考えていきたい」といった声が聞かれました。大規模災害時には院外からサポートを受ける事態も考えられます。

すべての部門部署が、いかに支援を上手に受け、活動を継続していくかを日頃から考えておく必要があるという、新たな課題が得られました。



他院DMATの支援を受けて
当院の現状分析を行いました



部署別訓練で自部署の課題に向き合いました



エリアでの診療も真剣そのものです

編集後記：

秋が本気を出してきてすっかり朝晩冷えてきました。

近々受ける職員健診のことは気が付かないフリをして、食欲の秋に本気を出していこうと思います。

